

明和製作所

4

世界同時不況の影響で、行ってきたつもりだった。

3皮脱皮

明和製作所社長の生野岳志は2010年3月期売上高で約3割減を覚悟した備えをしてきたが、それ以上に落ち込む非常事態が発生した。これまでに業務のレベルアップや新事業への仕込みは着実に進めてきた。09年11月には品質管理の国際規格ISO9001と、環境管理・監査の国際規格同14001を同時取得するなど、前向きな取り組みを

生野は改革当初から、景気に左右されない強みと独自性を身につけることを最重要課題に取り組んできた。それだけに、新規案件立ち上げが環境の激変に追いついていない現状にいちだちを隠せない。「全産業が落ち込んでいるから自社も落ち込んだと考えれば、企業の成長はそこで止まる。危機を乗り越えるためには社員全員がさらに力を合わせ、スピードアップして3皮ぐらい脱皮しなければならぬ」と手厳しい言葉を口にする。



環境・エネ・車を軸に成長

電動車両駆動装置に意欲



自社製モーターを搭載した新機種の電動バイクを10年春には発売する

▲.....

や、SR（スイッチト・リラクタンズ）モーターの実用化。さらにベンチャー企業と共同で電動車両向け駆動装置開発も進めている。

電動バイク新機種

電動バイク市場は中国企業や国内の中小・ベンチャーが先行している。しかし

燃やす。モーター開発ではバイクの特性や問題を把握するため、09年10月、新たに電動バイク販売部門を設けてテストマーケティングを始めた。10年度には約300台の販売を見込んでいます。同社の取引先は主に関東や関西圏だったが、生野は「電動バイクの販売を始めたことで、急に地域社会と密着した会社になった」と喜ぶ。

ベンチャーと共同

特に環境・エネルギー、自動車などをキーワードにした新事業の取り組みには熱がこもる。超高電圧向けの大型遮断器モーター開発

た。高速回転に磨きをかけて、毎分約10万回転の回転数を達成。その仕組みは低速から超高速まで対応し、マグネットや整流子を使わないメンテナンスフリーのシンプルな構造で、工作機

明和製作所の本社がある福岡県前原市に隣接する福岡市西区には、19年度をめぐりに九州大学が完全移転を果たす。新たな学研都市の誕生は、生野の意欲をさらにかきたてている。すでに九大との連携も計画している。モノづくりにかける生野の挑戦に終わりはない。

（敬称略）

（この項おわり。西部・広木竜彦が担当しました）